

使い方によっては人を傷つける 「凶器」となるインターネット

情報化社会の中で人権と向き合い、ネットの被害・加害を防ぐためにはどうすればいいのか、考えましょう。



旭ヶ丘小学校 6年 青木 優乃輔さん

A1 自分の画像をアップすることに抵抗がある人もいる！



解説

マキは SNS に自分の画像をアップしても気にならない人ようです。でもちょっと待って下さい。写っている人みんなが同じ考えでしょうか。抵抗がある人も少なくありません。

個人や集団にとって危険な情報がインターネット上に掲載されるなど、人権に関わる問題が発生しています。インターネットにより流出した情報は、最初の発信者の意図にかかわらず一瞬であらゆるところに広まってしまう可能性もあります。インターネットを使う私たち一人ひとりの人権意識が大切です。

(法務省人権擁護局・全国人権擁護委員連合会「じんけん自己診断」～こんなときどうする？～ より一部抜粋)

たかが噂、されど噂 近所や職場内、学校でのうわさ話や悪口について、あなたの考え方や行動はどのようでしょうか。「つつい…」「話をあわせて…」ということはないでしょうか。ネット社会ともかかわりの深い問題であります。社会全体で、互いの人権を尊重しあう啓発を進めていくことが大切になります。

人権交流センター施設の 利用について

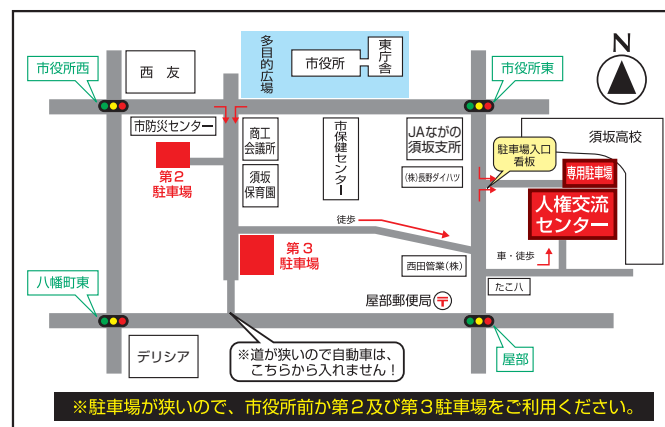
＜問い合わせ・相談＞ 月～金 8:30～17:15
＜土・日・祝日は休館、貸館の利用は可＞

○1階会議室・相談コーナー
定員 40 名、会議・研修会可

○2階会議室
定員 100 名、会議・研修会（机・椅子完備）
健康体操等にも活用可

○料理実習室（1階）
定員 15 名、車イス対応のシステムキッチン完備、
料理交流会等にも活用可

○どこでも図書館
図書閲覧、DVD、ビデオ、図書類等の貸出可



須坂市人権交流センター

人権同和政策課、人権同和教育課

〒382-0094 須坂市大字小山 1264-4
TEL (026)245-0909 FAX (026) 245-1045



保存版

人権教育啓発資料

人間を大切にする 明るい社会をめざして



南原町
大峡 美保さん

仁礼小学校 6年
澤田 葵さん

墨坂中学校 3年
中沢 謙介さん

平成 28 年度 小・中学生、一般応募作品優秀賞の標語・ポスターです

人権教育を柱に地域社会がつながりをもって、人権の確立をめざすことの大切さを学びあい、明るい社会の実現に向けて、一步一步前進してまいりたいと思います。

市民の皆様におかれましては、引き続き、人権問題を自らの課題として率先して取り組んでいただきますようお願いいたします。

須坂市・須坂市教育委員会
須坂市人権のまちづくり推進会議
須坂市企業人権教育推進会議



人権教育を柱にしたつながりを



須坂支援学校小学部5年
田中 智也さん

同和問題 ～多くの学習会で、きっかけづくりを～

今はどう勉強しているのかな？

部落差別のおこりを、かつての江戸時代の身分制度「士農工商」に求めていたことは誤りであり、中世の頃から身分の上で差別されていた人たちがいて、そこには社会や文化を支えてきた暮らしや仕事があったこと…。差別されてきた人たちも一律に貧しくということではなく、経済的にも裕福な集落や個人も存在していた。新しい歴史観・史実に基づいた学習が進められています。

差別を乗り越えてきた人たちの学び

被差別の体験談や「あけぼの」資料等の、差別と向き合い、乗り越えてきた人たちの言葉の一つ一つには、人としての理性や寛容さが満ち、人間の迷う思いを包み込んでくれています。

同和問題は、「自分はどうか生きるか」の大切な学びなんです。

「部落差別解消推進法」が成立・施行 昨年12月

その背景には、インターネット上の差別情報の氾濫や結婚差別、身元調査、差別発言等の**実態の存在**があり、「部落差別は基本的人権を保障する**憲法の理念に反し、許されない**」こととして、国は解消に向けた施策を講じる義務があるとしています。特に、①相談体制の充実、②差別解消に向けた教育・啓発活動、③差別の実態調査に取り組むこと等を国・地方自治体に求めています。

●やめようよ

差別は笑顔
うばって
く

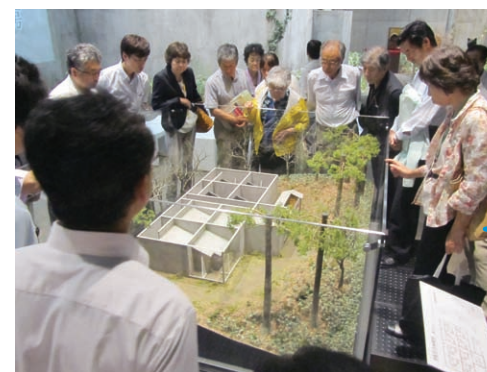
常盤中学校1年
松木 啓祐さん

ハンセン病問題 ～正しい理解で、支援づくりの輪を～

ハンセン病って、どんな病気が知っていますか？

かつてらい病と呼ばれ、らい菌に感染することで起こる病気です。その感染力は極めて弱く、とてもうつりにくい病気です。遺伝はしません。戦後、有効な治療薬の使用が始まり、現在は通院での治療が可能です。

しかし、90年間続いた誤った隔離政策により、ハンセン病は怖い病気というイメージが定着してしまい、それが偏見や差別を助長し、元患者や家族に対する人権問題が生じました…。



「人権のまちづくり推進会議」「企業人権教育推進会議」合同で、**国立ハンセン病療養所栗生楽泉園（群馬県草津町）への現地学習会**を実施しました。

入所者の方から、病気と隔離、そして被差別の体験を直接お聞きすることができ、お話をもとに隣接する資料館、納骨堂、重監房資料館の見学を行いました。二度とこうした悲しみや苦しみを繰り返してはならないという思いをあらたにしました。

●教室は
ともだち
たから
いっぱ
い

井上小学校4年
弓田 大雅さん

インターネットによる人権侵害 ～ルールを守る関係づくりを～

インターネットの特性を悪用した差別的な書き込み、個人情報の流出やネットいじめなど、人権に関わる問題が発生しています。

どうしたらいいのが？ 自分たちができることは何か？ ということに立ち止まっていませんか。インターネットは世界に開かれた公の場です。社会的なルールやマナーに基づいた使用が欠かせません。家庭や学校、友人同士で約束事を決める等の話し合いがとても重要になるのでは…。

Q1 他人が写っている写真をネットにアップしてもいいの？

こんな場面に出会ったときあなたならどうしますか？ 選択肢から選んでみましょう！

ハイチーズ
カシャ

マキ 後で送ってね

マキ

これSNSにアップしてもいい？

A

SNSにアップしといたよ

B

マキ

答えはウラ面をご覧ください

働きやすい職場づくりを ～企業人権教育推進会議の取り組み～



●救いの手
「誰か」じゃなくて
自分から

相森中学校3年
小日向 美波さん

ライフバランスを自己チェック

- 今の髪型は気に入っている
 - 自分が払っている税金の額を知っている
 - 仕事以外に興味や夢中になれることがある
 - 時と場合をわきまえて自分を表現している
- …人生のバランスを一緒に考えてみませんか!?

現在 85 事業所が加盟している須坂市企業人権教育推進会議では、差別解消をはじめ、多様な働き方・生き方についての学習会を開催しています。

今年度は、須坂支援学校を会場に指導者養成講座を開催しました。地域における須坂支援学校開設の意義や役割、ぷれジョブ活動の様子等、そして4月から施行された障害者差別解消法の成立過程、その趣旨を考えながら、**障がいのある人もない人も、だれもが自分らしく活躍できる社会の構築をめざす**考え方を学びました。

また、企業経営者研修では、専門講師を招き、ワーク・ライフ・バランスについての講演を聞きました。(左写真)

多くの企業の皆さんの参加をお待ちしています